

ほほえみの年輪をかさねて

第44回 全日本こけしコンクール



▲内閣総理大臣賞を受賞した柿澤さん

■内閣総理大臣賞受賞作品

鳴子系盛古型12号

柿澤是隆さん作



講評

鳴子系の伝統的な様式を形態と描彩の両面で忠実に継承しながら、作者の個性が加味され、穏和で気品を感じさせる作品である。

特に遠くに思いを馳せているような表情や、肩から裾にかけての柔らかな曲線の調和は、熟達した技術の冴えを十分に発揮している。さらに、巧みな筆致による豊かな表現力は出色で魅力的な存在感がある。

全国各地のこけし工人が「伝統」と「美」を競い合う「第四十四回全日本こけしコンクール」が、五月三日から五日まで、ホワイトキューブを会場に開催されました。コンクールには、全国延べ二〇八人の工人から、八八四点のこけしや木地玩具、応用木製品が出品され、厳正な審査の結果、内閣総理大臣賞に選ばれた鳴子町の柿澤是隆さんの作品をはじめ、各賞が選出されました。会場では、伝統こけし工人の実演・販売のほか、「第四回こけしの写真コンクール」や地場産品まつり、白石高原そばの手打ち体験・試食などの催しが併設され、市内外から多くの愛好家など、約七万人の入場者がありました。



▲いずれ劣らぬ力作ぞろいの入賞作品

▼準特選 古内克永さん
(仙台市)

「こけし大好き」



「ぬくもり」

こけしを題材としたコンクールには、五十三点の応募があり、どの作品もこけしの持つ、素朴であたたかな魅力がよく表現されていました。

▲特選 佐藤正人さん(登米郡東和町)

■第四回こけしの写真コンクール